

健康福祉常任委員会 2023 年度視察 滋賀県草津市

2023.5.10 実施

町田市議会議員 健康福祉常任委員 吉田つとむ

<視察内容：「健幸都市くさつ」の推進に向けて>



(草津市の概要)

交通：京都から 20 分。大阪から 50 分。名古屋から 60 分。

：江戸時代、東海道と中山道の分岐・合流地点の草津宿として発展。

：JR の 2 駅（草津駅、南草津駅）は、県下 1 番、2 番の乗降客数。

：市内に立命館大学びわこ・くさつキャンパスが立地。

面積：67.82 km²

人口：137,321 人

令和 5 年 3 月末現在

住み良さランキング：近畿ブロック 3 位、全国 38 位

2022 年東洋経済新報社

平均寿命：平均寿命：男性 82.6 歳（男性全国 5 位）、女性 87.9 歳

年市区町村別生命表（平成 30 年 4 月・厚生労働省

高齢化率：22.2%(県平均 26.3% 全国平均 28.8%)

R2.10.1 現在 全国令和 3 年版高齢社会白書

配布資料（令和 5 年 5 月 10 日）及び、一部追記



(説明の概要)

草津市が抱える課題 H24→R3

○人口 (1.1 倍 up)

125,611 人→137,266 人

○高齢化率 (4.0%up)

18.3%→22.3%

○介護認定者数 (1.5 倍 up)

3,538 人→8,276 人

○介護保険給付費 (1.6 倍 up)

51.9 億→82.8 億

(施策)

旧来の健康施策とされたものを、新たに健幸施策として、健幸都市づくりを目指してきている。

一般のスポーツ施策も健幸都市づくりの一環とされ、高齢者に対する e スポーツ普及が新規に取り組まれている。

読書活動の支援として、講演会の開催、各小中学校における読書に親しむ開会の創出が予算化されています。

子ども・若者の居場所づくり施策で設置・運営が予定されており、若者無業者 (ニート) やヤングケアラーへの対策が見込まれていました。

◆コラム◆ セットでおススメ 有酸素性運動と筋力トレーニング

筋力トレーニング(筋トレ)は、筋量と筋力を積極的に増加させることができる運動方法です。筋量の低下は転倒リスクだけでなく、生活習慣病の発症リスクを増加することが指摘されています。高齢期の運動機能と機能的自立を維持するためにも、ウォーキングなどの有酸素性運動と併せ、健康バンドやいきいき百歳体操などの筋力トレーニングを実施して、筋量を維持・増加することが必要です。

草津市では、低強度のいきいき百歳体操や、中強度の健康バンドなど、体力に合わせた手軽な「筋トレ」が地域ぐるみで取り組まれています。



<健康バンド教室の様子>

(所感)



高齢化の比率において、草津市は滋賀県に比べるともちろん、全国比率に比べてはるかに低い。そうした一般的な課題からすると、社会問題に設定する緊急の問題とは考えられないが、別の意図があると思われる。

例えば、

令和2年市区町村別生命表を公表(厚生労働省 令和5年5月12日発表)によれば、滋賀県草津市は、女性の長寿第4位にランクしています。男性は年市区町村別生命表(平成30年4月・厚生労働省)において、全国第5位を記録していました。

草津市は、男女いずれも全国トップの平均寿命であり、健康寿命が行政の大きな課題になっても不思議ではないことが考えられます。

それ以外の分析では、草津市がとびぬけて高齢化率が低い理由として、大学生が多くいる(立命館大学びわこ・くさつキャンパスが立地しており、在学生在が多数居住する)ことがあるが、大学では、学生数の多い学部の移転を計画し、その実施の直前になっている。*立命館大学HP資料:2024年4月、情報理工学部・情報理工学研究科を、大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)へ移転する:記事は下段に掲載。

情報理工学部

創造力のBorderを越え、まだ誰も知らないICTの未来へ。

2004年、情報通信技術(ICT)に関わる広範な領域を網羅する情報系学部として設立。様々な機器を有機的に接続することで先進的なサービスを提供するIoT、高度で知的な判断や作業をコンピュータシステムに行わせるAI、データを解析し新たな価値を生み出すデータサイエンスなど、情報科学技術の専門力量と独創性を兼ね備えた人材を育成し、新たな未来社会を創造することが使命です。

産学連携による実践的教育を積極的に導入し、行政や民間企業と連携しながら、世界にインパクトを与える研究に取り組んでいます。各領域を深く学ぶ6コースに加え、全ての授業を英語で学ぶ情報システムグローバルコースを設置。英語やキャリア養成の科目も充実しており、国際社会を舞台に活躍できる人材の育成を目指します。

- 学部学生数:1,953名(2020年5月1日現在)
- 入学定員:475名(2021年度)
- 現所在:[滋賀]びわこ・くさつキャンパス

[詳しくはこちら](#)

学生数だけで2000人近い人数であり、教職員、一般職員などで4-500人は存在するであろうから、他の関連を含めると、総数で学生の倍の員数の移

転、転業に影響を及ぼすであろうから、人口:137,321人の自治体にしたら、計り知れない施策の転換を必要とされるであろう。行政と大学の話し合いは何度も行われたはずであろうが、大学側の方針は既定事実として進展させているのだろう。

若者無業者（ニート）やヤングケアラーへの対策においては、その前者に対する具体的な施策を打ち出している自治体の例はなかなか見当たりません。どこかでその先進例が提起されたいし、町田市で取り組む必要があると考える次第です。